

研究名：機械学習による術中画像を用いた末梢型肺癌の臓側胸膜浸潤予測構築に関する研究

研究責任者： 呼吸器外科 職名 医師 氏名 四元 拓真

研究の背景・意義・目的：

肺癌についてはその病期分類に臓側胸膜浸潤の有無が影響を与えます。術中に顕微鏡的に臓側胸膜浸潤を評価することは現実的ではないのが現状であるため、術後に臓側胸膜浸潤が判明する症例が存在します。術中に臓側胸膜浸潤を予測できれば、根治性を高めるため肺切除範囲を拡大したり、リンパ節の郭清を追加するなどの追加処置をその場で施行することが可能となり、再発リスクを低減できる可能性があります。そのため、術中に臓側胸膜浸潤を予測する手段として、これまでの術中写真を用いて機械学習を行い、予測の精度を高めることを目的としています。

研究の方法：

・対象となる患者さん

肺癌もしくは肺癌疑いにて手術適応と判断され当科に紹介となり、2014年1月1日から2024年12月31日までに該当手術を受けられた方。

・研究期間 院長の研究実施に関する決定通知発行後から西暦2025年6月30日

・利用する検体、カルテ情報

カルテ情報 診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査）、術中写真

・検体や情報の管理

情報は、当院のみで利用します。

研究組織：

この研究は、当院のみで実施されます。

個人情報の取扱い：

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

研究計画書等の公表：

この研究に関連した各種データについて知りたい場合は、担当医師を通じてその情報の開示を求めることができます。また、ご希望があれば、研究計画書や研究の方法に関する資料の閲覧や、ご提供することも可能です。ただし、他の患者さんの個人情報や研究の知的財産など、情報の種類によっては開示できないものがあります。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、ご自身の検体やカルテ情報を当該研究に利用することをご了解できない場合などは、研究対象とはしませんので、研究責任者までお申し出ください。その場合でも皆様に不利益が生じることはございませんのでご安心ください。

＜問い合わせ先＞ 独立行政法人国立病院機構 東京病院 呼吸器外科 氏名：四元 拓真
住所：東京都清瀬市竹丘3-1-1 電話：042-491-2111 (代)

独立行政法人国立病院機構 東京病院 院長